

# T&M通信

～税務と経営～

## 2021年10月号

### 今月の経営チェックポイント✓

- 社会保険料の標準報酬月額の時改定による徴収額の変更月です。
- 10月からの京都府の最低賃金は937円です。
- 10月、11月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。
- 10月は祝日がありません。※10月11日(月)は祝日の移動により、平日になっています。
- 10月から普通郵便(特定記録郵便含む)の土曜日配達休止されます。また普通郵便のお届け日数が1日程度繰り下げになりますのでご注意ください。

### 納税期限スケジュール

- 労働保険料の延納(分割納付)の第2期分の納付期限は、11月1日(月)までです。
- 個人の道府県民税及び市町村民税の第3期分の納付期限は11月1日(月)までです。



## 着眼点 「 国の借金と国民の『お金』 」

税理士 田中 彰

10月になり、2021年も3ヶ月を残すだけになりました。今月から小麦などが値上がりし、ガソリン価格の高止まりなど物価上昇が気になる昨今です。

ところで、現在の国や地方の借金は1200兆円と言われ、日本の人口1億2500万人で割ると国民1人当たりの借金は960万円くらいになります。このような話が財務省から発信されると消費税増税(税率アップ)を持ち出されるのが相場です。ともあれ、国等の多額の借金は、私たち国民にとって本当に深刻な問題なのか否かを少し考えてみます。

#### □悲観論

国の借金だが、国には貨幣鑄造権という独占的な権利があるのでお金を刷って借金の返済に回せば良いという考えがあります。しかし、貨幣鑄造権を乱用し、市場に流通する貨幣が乱発されると、貨幣価値が暴落しハイパーインフレすなわち超物価高が起こります。いくら国の借金が消えたとしても物価が倍増すれば多くの国民の生活は成り立ちません。これが実行されることは無いと思いますが、じわじわと迫りくる今後の物価高は嫌な感じです。

#### □楽観論

一方、先月9月17日の日経新聞の記事に「家計金融資産、過去最高の1992兆円 6月末時点」とありました。「株高で株式や投資信託の含み益が増えたほか、6月のボーナスが現預金の残高を押し上げた」とあり、私には結構衝撃的な記事でした。単純に先ほどの国の人口で割ると1人当たりの金融資産額は、

1593万6000円 約1600万円となります（皆さんスゲー持ってる）。国の借金を上回る国民の金融資産があり、国は金持ちの国民から国債を買って頂き、財政赤字を補いながら、後は税金で少しずつ回収すれば問題なしという考えです。

#### □お金の行き先

先ほど家計金融資産残高の記事で「衝撃的」と言いましたが、この30年くらいで残高が倍増したそうです。これは30年くらい前から国が国民に訴えた「貯蓄から投資へ」の施策が功を奏したとのことです。お金の回り方は複雑だけれど国民は自ら国債を買わなくても投資した企業を通じて国債を買う形になります。それから1人当たり1600万円と言いましたが、全体の僅か2.5%くらいの富裕層（金融資産1億円以上）や超富裕層（同5億円以上）が平均を大きく押し上げています。そして、この方たちは将来普通であれば多額の相続税を支払うことになり、財政赤字を補填してくれる筈です。

先日、ある会合で「お金儲けの研究がしたい」というようなことを申し上げたら、ある方が「人間そんな事を考え出したらお終いや。地道に働けなくなるで」と言われました。多少誤解されたようですが、一般論はそうかもしれません。お金儲けの話は時と場合によりご法度かもしれませんね。

## ●パラリンピックとデフリンピック

2021年9月5日にコロナ禍のなか開催された東京パラリンピックが閉幕しましたが、パラリンピックには聴覚障害者（ろう者）向けの競技がないという事はご存知でしょうか。私はつい最近まで知らず、SNSでそのことについて書いた記事をたまたま目にして、とてもびっくりしました。

東京パラリンピックでは車椅子ラグビーや視覚障害の方の柔道など、22競技539種目もありましたが、ろう者向けの競技は1種目もないとの事でした。「思い返してみればなかったかも！！」と思いました。

ろう者にはパラリンピックとは別にデフリンピックという大会が4年に1回あり、2022年に夏季大会がブラジルであるそうです。また、冬季大会もあるそうです。

（※デフ・・・ろう者、聴覚障害者の意味があります。）

デフリンピックの始まりは1924年のパリ大会で、国際スポーツ大会としてはオリンピックに続き世界で2番目に古い大会とされています。なぜパラリンピックと一緒にできないのでしょうか。

- ①パラリンピックより古い歴史があり、国際組織としてのろう者スポーツ委員には「デフのことはデフにしか理解できない」⇒「デフ運営主義」があること。
- ②コミュニケーションの壁があり、手話通訳の費用が大きくなってしまふこと、また手話通訳をつけても手話に時間がかかって発言をすぐには理解できないという問題があること。
- ③他の障害者との身体的能力の差があり、ろう者は身体的には障害者ではないので、陸上や水泳などの個人競技はろう者でもオリンピックで活躍されている方がいること。一方、バレーボールなど声かけでコミュニケーションを必要とする競技は難しいこと。

大まかではありますが、以上3つの理由からパラリンピックとは一緒に開催されていないそうです。私個人としては、多種多様な世の中になりつつあるのであれば、一緒にできるようになれば一緒に観戦できて応援できるのには思いますが、そう簡単なことではないのかなとも感じました。

（文責：井上 知己）